

令和元年度の事業実施状況

広島祈念館 1頁～11頁

令和元年度 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成14年8月）以来、令和2年3月末までの入館者数は、4,592,818人となっており、同期間の平和記念資料館入館者（24,151,004人）の19.0%である。

【 過去3年間の月ごとの入館者数を10ページに記載 】

（参考）年度別入館者数

区分	入館者数	1日平均 入館者数	対前年比	外国人（内数）	
				入館者数	対前年比
平成29年度	401,892人	1,107人	117.7%	116,456人	148.1%
平成30年度	433,912人	1,195人	108.0%	159,312人	136.8%
令和元年度	379,163人	1,142人	87.4%	145,233人	91.2%
累計	4,592,818人		—	—	—

※ 外国人入館者数とは、総合案内において外国語版のリーフレット又はチラシを配布した人数を集計している（平成24年度から集計開始）。

※ 令和元年度は新型コロナウイルス感染予防及び拡散防止のため、2月29日から3月31日まで臨時休館した。

2. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

広島県内各市町での葬祭料給付申請時や、平和記念式典への参列案内時に遺影登録の案内をするほか、8月1日から6日まで原爆死没者名簿への登載確認等との共同窓口の設置をしている。また、被爆者証言ビデオの収録や被爆体験記執筆補助事業などの機会をとらえ、登録申請を呼びかけた。さらに、著名人の遺影登録に際し、マスコミに情報提供するなど遺影登録の周知を図った。

（参考）年度別登録状況

区分	原爆死没者数（登録数）	対前年比
平成29年度	714人	94.9%
平成30年度	677人	94.8%
令和元年度	769人	113.6%
累計	23,789人	—

3. 被爆体験記等の収集・整理・公開

被爆者の高齢化等により年々新規収集が困難な状況にあるが、広報紙への掲載やマスコミへの情報提供のほか、被爆者証言ビデオ収録などの機会をとらえて被爆体験記の提供を呼びかけるとともに、体験記執筆補助事業（平成 18 年度開始）により収集に努めた。また、新聞等に掲載された被爆体験記の記事を確認し、発行者等へ照会して、寄贈又は購入の依頼を行った。

収集した被爆体験記については、より一層の活用を図るため、データベース化、イメージデータ化及びテキストデータ化を推進し来館者の利便性の向上を行った。

(参考) 年度別被爆体験記収集状況

区分	体験記収集数 (編)					図書収集 (冊)		公開数 (編) (注1)
	H7 厚生省	H17 厚労省	H27 厚労省	独自収集	計	購入	寄贈	
平成 29 年度	0	0	0	72	72	37	59	11,349
平成 30 年度	0	0	0	33	33	140	71	39
令和元年度	0	0	-5	74	69	142	83	139
累計	81,205	11,778	11,346	3,379	107,708	2,001	3,101	147,423

(注1) 被爆体験記として収集後、内容を整理・精査し登録対象外とする場合があり、また収集年度と公開年度が異なる場合があるため、各年度の収集数と公開数は一致しない。

(参考) 被爆体験記のデータベース化等の進捗状況

区分	編数	割合
館内公開体験記数	147,419	—
データベース化 (注2)	138,717	94.1%
イメージデータ化 (注3)	107,623	
テキストデータ化 (注4)	2,288	

(注2) データベース化とは、来館者が閲覧を希望する被爆体験記を容易に検索できるよう、被爆体験記に書かれている情報に基づき、被爆者の氏名、年齢、所属及び被爆場所、登場する人物、場所及び時期などを、職員が分類・整理し、システムに登録する作業をいう。

(注3) イメージデータ化とは、館内公開している被爆体験記を、展示端末画面で容易に閲覧できるよう、被爆体験記をスキャンしてシステムに登録することをいう（平成 24 年度から実施）。

(注4) テキストデータ化とは、被爆者が手書きで書いた被爆体験記を読みやすく、また、将来、多種多様なキーワードにより検索が可能となるよう、被爆体験記を文字入力する作業をいう（平成 24 年度から本格的に推進）。

4. 企画展の開催

情報展示コーナー（地下1階）において、毎年定めるテーマに沿って企画展を開催する。関連資料を展示し、被爆体験記をディスプレイで閲覧できるようにするとともに、被爆者の証言映像及び被爆者自身が描いた「原爆の絵」等を交えた映像作品を制作し上映する。また、映像資料はインターネットに掲載するとともに、平和学習資料としてDVDや資料の貸出を行っている。

(1) 「流燈 広島市女原爆追憶の記 最も多くの犠牲を出した女学校の記録」

期間：平成31年1月1日(火)～令和元年12月29日(日)

概要：1945年4月以降、戦局の悪化に伴い中学生以上の

授業は中止され、生徒たちは食糧生産や軍需工場に動員されていた。原爆投下時に爆心地に近い屋外で建物疎開作業をしていた生徒の被害は甚大で、1～2年生のほぼ全員が動員された広島市立第一高等女学校（現在の市立舟入高等学校）では666名の生徒が亡くなり、建物疎開作業に動員された学校の中で犠牲者数は最大となった。13回忌の1957年8月、追悼集『流燈』が遺族により刊行され、遺族の追憶の記とともに、生徒らの遺稿も掲載された。企画展では、『流燈』に掲載された体験記を中心に遺影や関連資料を展示し、戦争や原爆の悲惨さ、平和の大切さを伝える。

（被爆体験記28編、関連資料5点、原爆死没者の遺影353名）



(2) 「時を超えた兄弟の対話 ―ヒロシマを描き続けた四國五郎と死の床でつづいた直登の日記―」

期間：令和2年1月1日(水)～12月29日(火)（予定）

概要：画家としての才能を、反戦・核兵器廃絶を訴えることに全て捧げた四國五郎（1924-2014）。そのきっかけは、最愛の弟・直登（1927-1945）が原爆により18歳で短い生涯を閉じたことだった。企画展では、被爆当日から亡くなる前日まで、病床でつづられた弟・直登の日記を中心に、兄・五郎の追悼文や作品を紹介しながら、時を超えた2人の対話を再現した。（3面シアター映像約30分、四國直登の日記（現物）と四國五郎実作品約20点、館長論文及び四國五郎の追悼記、作品集等）



5. 被爆体験記執筆補助

被爆者の高齢化に対応し、体験記を残す意欲がありながら高齢等により体験記の執筆が困難な広島県内の被爆者を対象に、職員による聞き取りと代筆を行った。(平成18年度開始)

(参考) 年度別実施状況

区分	応募数	実施者数	辞退数 (体調不良等)
平成29年度	11人	10人	1人
平成30年度	9人	8人	2人
令和元年度	13人	11人	3人
累計	176人	154人	24人

※ 平成30年度及び令和元年度の実施者には前年度応募者1名ずつ含む。



被爆当時の地図などを見ながら被爆体験を聞き取りします

6. 被爆者証言ビデオ（国外在住被爆者）制作

被爆体験を次の世代へ継承するため、被爆後国外で生活を送られた方々の体験談をビデオに収録し、編集作業を行った。制作した証言ビデオは令和2年6月から館内の体験記閲覧室で公開する。

これまでは、主に、渡日治療などで広島を訪れる被爆者を対象に制作していたが、治療目的で広島を訪れる被爆者が減少し、出演していただける証言者をお願いすることが困難な状況になっている。令和元年度は、アメリカ在住の被爆者(広島5人)に証言をお願いし、収録を行った。



ロサンゼルスで証言を収録しました

(参考) 年度別制作状況

区分	国・地域	実施人数
平成29年度	韓国(3人)、アメリカ(3人)	6人
平成30年度	韓国(1人)、アメリカ(5人)	6人
令和元年度	アメリカ(5人)	5人
累計	韓国(34人)、台湾(4人)、アメリカ(18人)、アルゼンチン(1人)、オーストラリア(1人)、カナダ(2人)(うち1人は日本語、英語で2本収録)、ブラジル(5人)、メキシコ(2人)	68人 (68本)

7. 被爆者証言ビデオ（広島県外在住被爆者）制作

被爆体験を次の世代へ継承するため、被爆者団体等から推薦された被爆者を対象に、長崎祈念館と協力（長崎被爆者7人は長崎祈念館が収録・編集を担当）し、その体験談をビデオに収録（令和元年9～12月）し、編集作業を行った。制作した証言ビデオについては、令和2年6月から館内の体験記閲覧室で公開する。



カメラを前に被爆体験を語ってもらいます

（参考）年度別制作状況

区分	実施人数	収録都道府県
平成29年度	12人	北海道5人、栃木1人、埼玉2人、千葉2人、東京1人、神奈川1人
平成30年度	10人	北海道4人、岩手1人、福島1人、東京4人
令和元年度	18人	福島1人、埼玉2人、東京3人、神奈川8人、愛知4人
累計	379人	45都道府県で収録（広島県及び長崎県を除く。）

8. 多言語化対応事業

海外から来館する多くの人に、母国語で被爆の実相を伝えるため、令和元年度は被爆者証言ビデオの証言内容を英語、中国語、韓国・朝鮮語、アラビア語、クロアチア語、ドイツ語、ハンガリー語、フランス語、ヘブライ語、ロシア語の10言語に翻訳した。（証言ビデオの字幕翻訳言語数は23言語）

また、被爆体験記を英語、中国語、韓国・朝鮮語、ヘブライ語の4言語に翻訳した。

（被爆体験記の翻訳言語数は24言語）

（多言語化の詳細を11ページに記載）

9. 被爆体験記の朗読事業

収集した被爆体験記を活用し、戦争や原爆の恐ろしさ、平和の大切さを語り継ぐことを目的に平成17年度から実施している。

修学旅行生や市内の学校などを対象とした朗読会、毎月第3日曜日に開催する定期朗読会、毎月第2日曜日及



追悼平和祈念館での定期朗読会

び第4金曜日に開催する定期英語朗読会、多くの来館者が見込まれる時期での集中開催、市内近郊への出前朗読会及び国際交流担当部署との連携により、海外からの来館者を対象とした英語朗読会（平成19年度から実施）も開催した。また、全国で朗読会を開催したいとの要望に応えるため、朗読セットを国内15団体へ貸し出した。

（参考）年度別開催状況 （単位：回）

区分	広島市内	定期	集中開催 8月5日～6日 5月3日～5日	原爆展	英語朗読 （英語定期 含む）	計
平成29年度	151	22	13	国内5	35	226
平成30年度	125	24	13	国内5 海外1	51	219
令和元年度	94	22	13	国内2 海外2	41	174

1.0. 被爆体験伝承者等の派遣

被爆の実相、平和への想いを日本全国の次世代に語り継ぐために、「被爆体験伝承者」と「被爆体験記朗読ボランティア」を、平成30年度から国内の学校等へ無料で派遣し、被爆体験伝承講話及び被爆体験記朗読会を実施した。

令和元年度は、全国に446件（伝承講話395件 朗読会51件）派遣した。この派遣による講話及び朗読会において約8万人の児童・生徒等が聴講した。

（参考）地域別派遣件数 （単位：件）

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
件数	11	43	121	56	133	48	18	16	446

（参考）申込団体別派遣件数及び聴講者数 （単位：件・人）

区分	小学校	中学校	高等学校	大学	自治体	その他	計
件数	191	145	59	6	23	22	446
聴講者数	20,119	32,130	20,903	492	2,828	2,619	79,091

また、海外在住（1名）の被爆体験伝承者による伝承講話の開催（1件）、ロシアのボルゴグラード市に被爆体験伝承者（1人）及び朗読ボランティア（2人）を派遣し、海外の人々と核兵器の恐怖や非人道性の認識について共有を図った。

- ・被爆体験伝承講話 1回 162人参加
- ・被爆体験記朗読会 2回 114人参加

1.1. 被爆体験伝承者等に対する語学等の研修

上記10の被爆体験伝承者等の海外派遣において、被爆の実相を正確に伝えることができるよう語学力の向上を図るため研修を実施した。

被爆体験伝承者 20回、 被爆体験朗読ボランティア 13回

1.2. 修学講習の実施

被爆体験の次の世代への継承と平和意識の高揚を図るため、修学旅行などで広島を訪れた児童・生徒等を対象に、被爆者による被爆体験講話等を内容とする講習を追悼平和祈念館研修室で行った。

(令和元年度実施状況)

区分	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	276	71	24	210	581
聴講者数	15,983	3,942	1,618	6,009	27,552
1団体あたりの平均聴講者数	57.91	55.52	67.42	28.61	47.42

1.3. 広島平和学習セミナーの開催

平和学習を目的として多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社(教育旅行部門)を対象に、広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催した。

広島修学旅行プラン、平和記念資料館のリニューアル、被爆体験継承の取組を紹介し、さらに被爆体験伝承講話及び被爆体験記朗読会の実演を行った。

参加者からは、「広島修学旅行プランのモデルコースが参考になった」、「より平和学習に関心が持てた」、「実演を実際に聴いて感動した。生徒への修学旅行の事前・事後学習に生かしたい」、「朗読がこんなにも心に訴える力があることを実感した」などの意見が寄せられた。

(参考) 年度別開催状況

区分	開催都市		参加者
平成29年度	さいたま市	平成29年9月20日	23人
	宇都宮市	平成29年9月21日	19人
平成30年度	東京都(新宿)	平成30年7月24日	28人
	東京都(秋葉原)	平成30年7月25日	22人
令和元年度	東京都	令和元年8月21日	25人
	名古屋市	令和元年8月22日	13人



被爆体験伝承講話と被爆体験記朗読会を実演しました

14. インターネットによる情報提供

広島祈念館の事業内容を、ホームページで広く情報提供するとともに、外部提供について同意の得られた被爆体験記及び被爆者証言ビデオを、順次、ホームページ（平和情報ネットワーク <http://www.global-peace.go.jp/>）に掲載し情報発信した。

また、スマートフォンやタブレット端末等の普及・多言語による情報発信、セキュリティ強化等に対応するため、令和2年度のホームページリニューアルを目指して基本設計を行った。

（参考）ホームページ公開状況

11 インターネットによる情報提供 グローバルネットワーク（平和情報ネットワーク）掲載本数及び編数

区分	被爆体験記					証言ビデオ				
	H28年度まで	H29年度	H30年度	R元年度	総掲載編数	H28年度まで	H29年度	H30年度	R元年度	総掲載本数
1 日本語	516	48	277	26	867	554	25	32	27	638
2 英語	108		25	20	153	142	8	6	6	162
3 中国語	79		23	13	115	140	7	9	3	159
4 韓国・朝鮮語	79		23	12	114	143	8	17	2	170
5 アラビア語	9				9	5		1	1	7
6 イタリア語	9				9	8		2		10
7 インドネシア語	9				9		5			5
8 ウルドゥー語	9				9	5				5
9 オランダ語	6		3		9	6				6
10 ギリシャ語	6				6					0
11 クロアチア語					0	1		1	1	3
12 スウェーデン語	9				9	3				3
13 スペイン語	9				9	8	2	2		12
14 スロベニア語					0	3	1	2		6
15 タイ語	9				9	3				3
16 ドイツ語	9				9	25	2	7	4	38
17 ノルウェー語		0	5		5		0			0
18 ハンガリー語		2			2		1	4	1	6
19 ヒンディー語	9				9	3		1		4
20 フィリピン語	9				9		3			3
21 フィンランド語	6				6					0
22 フランス語	9				9	22	7	3	3	35
23 ベトナム語	6		3		9					0
24 ポーランド語	9				9		1	1		2
25 ポルトガル語	9				9	7		2		9
26 マレー語	9				9	3				3
27 モンテネグロ語		2			2		0			0
28 ロシア語	9				9	8	1	1	1	11
合計	941	52	359	71	1,423	1,089	71	91	49	1,300

（参考）平和情報ネットワーク総アクセス件数

区分	総アクセス件数
平成29年度	4,349,076
平成30年度	5,780,021
令和元年度	5,526,862

15. 情報展示システムの保守・管理並びに展示整備基本構想の策定

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、中長期的観点から建物・展示更新の視点も含めた「情報システム機器更改・展示整備基本構想」を長崎祈念館とともに策定した。

16. 中長期修繕計画の策定

平成14年の開館から18年が経過し、建物や設備の老朽化が顕著となっているため、令和2年度以降30年間の修繕計画を策定した。

17. 来館者増加対策等

多くの来館者が予想されるため、平和記念資料館と合わせて開館時間の拡大を行った。

また、平和推進担当及び国際交流担当部署等との連携により、海外からの来館者の施設案内を行うとともに、広島平和記念資料館及び観光担当部署との連携により、観光事業従事者研修会、観光ボランティアガイド養成講座及び教育関係者招聘事業などの機会を利用して施設案内及びPRを行った。

今後とも、感想ノート等により、来館者の声に耳を傾け、来館者サービスの向上を図るとともにあらゆる機会を捉え、広報紙、ホームページや新聞等のマスコミを通じて積極的にPRを行う。

(参考) 開館時間の拡大による効果

区分	効果（来館者の増）		拡大理由
5月3日～5日	8:30～18:00→ <u>20:00</u>	372人	フラワーフェスティバル開催期間
8月10日～18日	8:30～19:00→ <u>20:00</u>	290人	資料館リニューアルに伴う混雑が予想される夏休み期間

18. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取り組み

- ・総合案内のレイアウト変更など：リーフレットの手渡しを中止した。
- ・臨時休館：令和2年2月29日から3月31日まで（以降も継続）
- ・主催事業の中止・延期：被爆体験記の朗読会などを中止した。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数について（平和記念資料館との比較）

平成29年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比
H29 4月	32,508	158,681	20.5%	117.4%
5月	37,728	211,136	17.9%	101.8%
6月	27,503	130,032	21.2%	94.6%
7月	27,348	119,397	22.9%	94.1%
8月	42,294	207,272	20.4%	98.8%
9月	33,629	138,233	24.3%	110.5%
10月	49,744	196,163	25.4%	138.3%
11月	48,298	183,037	26.4%	136.6%
12月	23,309	81,240	28.7%	136.0%
H30 1月	22,037	66,620	33.1%	137.7%
2月	21,617	65,477	33.0%	142.7%
3月	35,877	123,635	29.0%	139.4%
合計	401,892	1,680,923	23.9%	117.7%
累計	3,779,743	20,869,805	18.1%	—

平成30年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比
H30 4月	44,270	153,848	28.8%	136.2%
5月	51,557	201,355	25.6%	136.7%
6月	35,451	119,766	29.6%	128.9%
7月	29,146	86,579	33.7%	106.6%
8月	43,998	163,441	26.9%	104.0%
9月	36,987	121,771	30.4%	110.0%
10月	48,457	181,407	26.7%	97.4%
11月	42,801	164,361	26.0%	88.6%
12月	22,752	77,588	29.3%	97.6%
H31 1月	21,013	62,487	33.6%	95.4%
2月	19,923	61,240	32.5%	92.2%
3月	37,557	128,610	29.2%	104.7%
合計	433,912	1,522,453	28.5%	108.0%
累計	4,213,655	22,392,258	18.8%	—

令和元年度

区分	祈念館	資料館	割合	祈念館 対前年度比	資料館 対前年度比
H31 4月	52,216	180,830	28.9%	117.9%	117.5%
R元 5月	48,616	241,864	20.1%	94.3%	120.1%
6月	32,484	150,107	21.6%	91.6%	125.3%
7月	29,592	130,919	22.6%	101.5%	151.2%
8月	43,305	213,606	20.3%	98.4%	130.7%
9月	36,290	164,579	22.1%	98.1%	135.2%
10月	46,382	237,213	19.6%	95.7%	130.8%
11月	37,643	197,984	19.0%	87.9%	120.5%
12月	19,681	94,291	20.9%	86.5%	121.5%
R2 1月	17,805	79,230	22.5%	84.7%	126.8%
2月	15,149	68,123	22.2%	76.0%	111.2%
3月	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
合計	379,163	1,758,746	21.6%	87.4%	115.5%
累計	4,592,818	24,151,004	19.0%	—	—

8.多言語化対応

区分	被爆体験記		証言ビデオ				リーフレット 翻訳言語状況 (◎はR元年度新規作成)
	翻訳編数 (A)	(A)のうち R元年度新規 追加(作成)編 数	字幕付本数 (B)	(B)のうち R元年度新規 追加(作成)本 数	吹替え本数 (C)	(C)のうちR元 年度新規追加 (作成)本数	
1	英語	398	7	803	5	105	○
2	中国語	323	7	160	3	105	○
3	韓国・朝鮮語	322	7	158	1	105	○
4	アラビア語	9		8	2		○
5	イタリア語	9		10			○
6	インドネシア語	9		5			◎
7	ウルドゥー語	9		5			◎
8	オランダ語	9		3			○
9	ギリシャ語	9					
10	クロアチア語			3	1		
11	スウェーデン語	9		3			◎
12	スペイン語	9		12			○
13	スロベニア語			6			
14	タイ語	9		3			○
15	ドイツ語	9		33	4		○
16	ノルウェー語	5					
17	ハンガリー語			6	1		
18	ヒンディ語	9		4			○
19	フィリピン語	9		3			◎
20	フィンランド語	6					
21	フランス語	9		30	3		○
22	ヘブライ語	9	5	5	5		○
23	ベトナム語	9					○
24	ポーランド語	9		5			○
25	ポルトガル語	9		9			○
26	マレー語	9		3			◎
27	ロシア語	9		6	1		○
合計編・本数(作成)		1,225	26	1,283	26	315	0
合計言語数(作成)		24	4	23	10	3	0
							21

※1 上記以外にも平成29年度は、海外原爆展への協力事業として字幕付き証言ビデオ【ハンガリー語(1本)及びモンテネグロ語(1本)】を製作した。しかし館内システムやグローバルネットワークでの公開は行っていないため、合計編・本数及び合計言語数から除いている(2018年3月末日現在)